

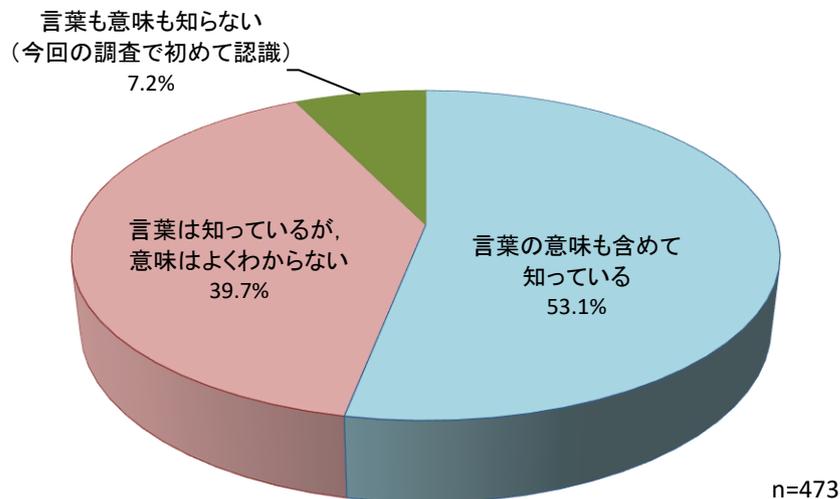
6. カーボンニュートラル（脱炭素）について

(1) カーボンニュートラルの認知度

◇ 「言葉の意味も含めて知っている」が5割強

問20	あなたは、カーボンニュートラル（脱炭素）についてどの程度知っていますか。	
	※ カーボンニュートラル（脱炭素）とは… 二酸化炭素等の温室効果ガスの「排出量」から、植林や森林管理等による「吸収量」を差し引いて、その合計を実質的にゼロにすること。	(○は1つ)
		n=473
1	言葉の意味も含めて知っている	53.1%
2	言葉は知っているが、意味はよくわからない	39.7%
3	言葉も意味も知らない（今回の調査で初めて認識）	7.2%
	(無回答)	0.0%

<図IV-6-1>全体



カーボンニュートラル（脱炭素）についてどの程度知っているかについては、「言葉の意味も含めて知っている」が53.1%で最も高く、次いで「言葉は知っているが、意味はよくわからない」が39.7%であった。

(図IV-6-1)

<参考>

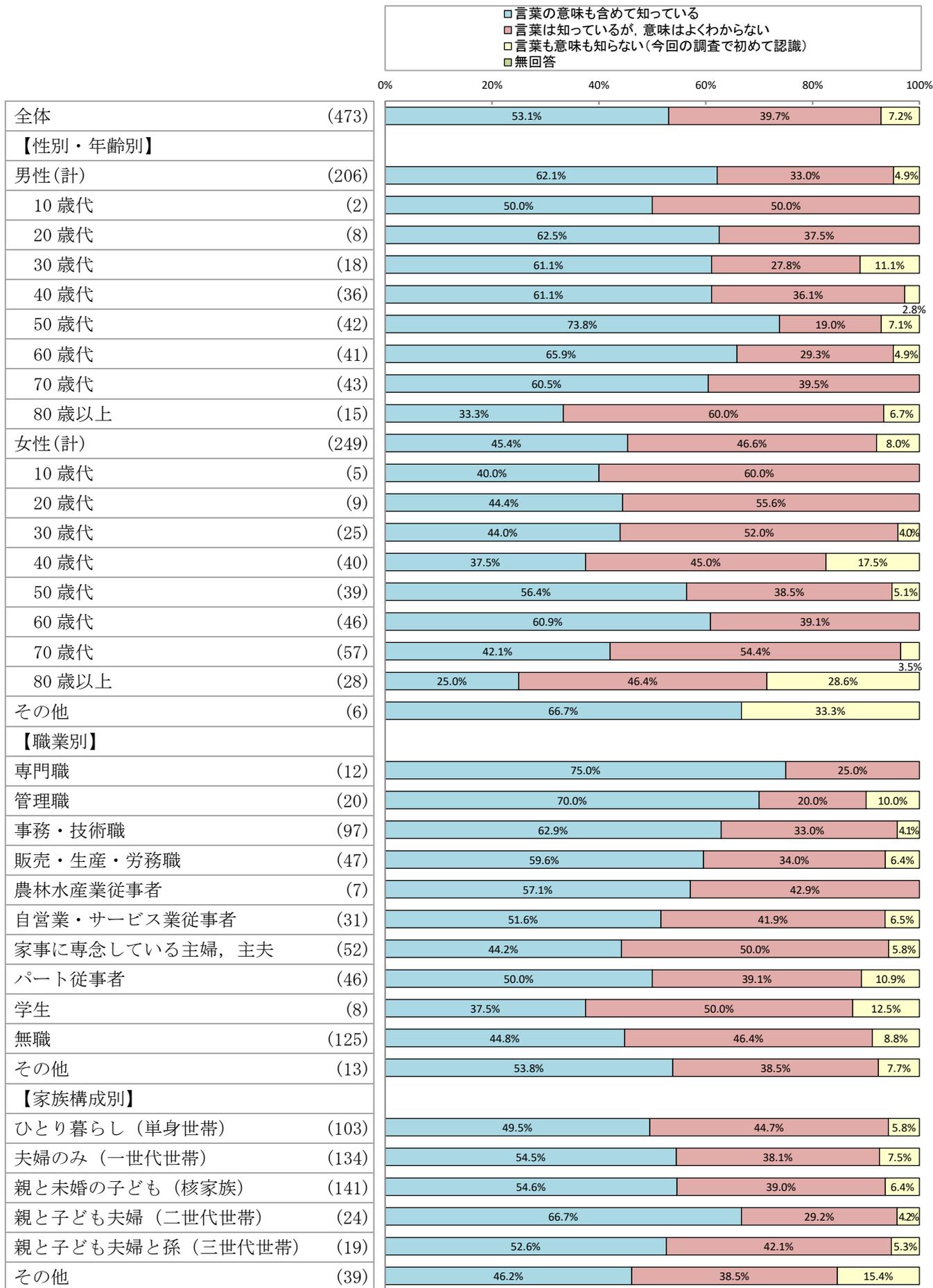
性別・年齢別でみると、「言葉の意味も含めて知っている」は<その他>を除くと、<男性 50 歳代>が73.8%で最も高く、次いで<男性 60 歳代>が65.9%、<男性 20 歳代>が62.5%であった。「言葉は知っているが、意味はよくわからない」は<男性 80 歳以上><女性 10 歳代>がいずれも60.0%で最も高く、次いで<女性 20 歳代>が55.6%であった。(図IV-6-2)

職業別でみると、「言葉の意味も含めて知っている」は<専門職>が75.0%で最も高く、次いで<管理職>が70.0%、<事務・技術職>が62.9%と続いた。「言葉は知っているが、意味はよくわからない」は<家事に専念している主婦、主夫><学生>がいずれも50.0%で最も高く、次いで<無職>が46.4%であった。

(図IV-6-2)

家族構成別でみると、「言葉の意味も含めて知っている」は<親と子ども夫婦（二世帯世帯）>が66.7%で最も高く、次いで<親と未婚の子ども（核家族）>が54.6%、<夫婦のみ（一世帯世帯）>が54.5%と続いた。「言葉は知っているが、意味はよくわからない」は<ひとり暮らし（単身世帯）>が44.7%で最も高く、次いで<親と子ども夫婦と孫（三世帯世帯）>が42.1%であった。(図IV-6-2)

<図IV-6-2>性別・年齢別／職業別／家族構成別

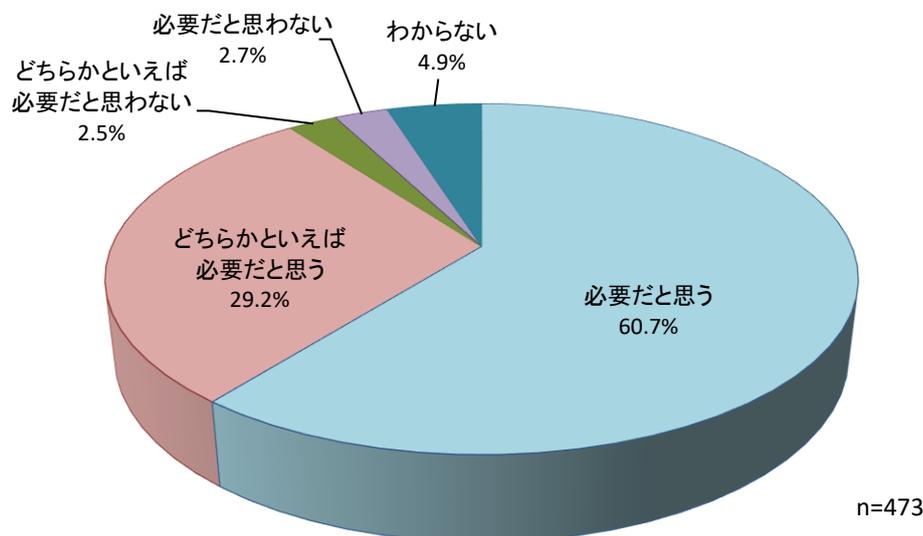


(2) カーボンニュートラルの実現に向けた取組は必要だと思うか

◇ 「必要だと思う」と「どちらかといえば必要だと思う」を合わせた【必要だと思う(計)】が約9割

問 2 1	カーボンニュートラルの実現に向けて取り組んでいくことは必要だと思いますか。宇都宮市は、2030年度市全体の温室効果ガス削減目標について、2030年度50%削減を掲げています。	(〇は1つ) n=473
1	必要だと思う	60.7%
2	どちらかといえば必要だと思う	29.2%
3	どちらかといえば必要だと思わない	2.5%
4	必要だと思わない	2.7%
5	わからない	4.9%
	(無回答)	0.0%

<図IV-6-3>全体



カーボンニュートラルの実現に向けた取組は必要だと思うかについては、「必要だと思う」が60.7%、「どちらかといえば必要だと思う」が29.2%で、これらを合わせた【必要だと思う(計)】は89.9%であった。一方、「どちらかといえば必要だと思わない」が2.5%、「必要だと思わない」が2.7%で、これらを合わせた【必要だと思わない(計)】は5.2%であった。(図IV-6-3)

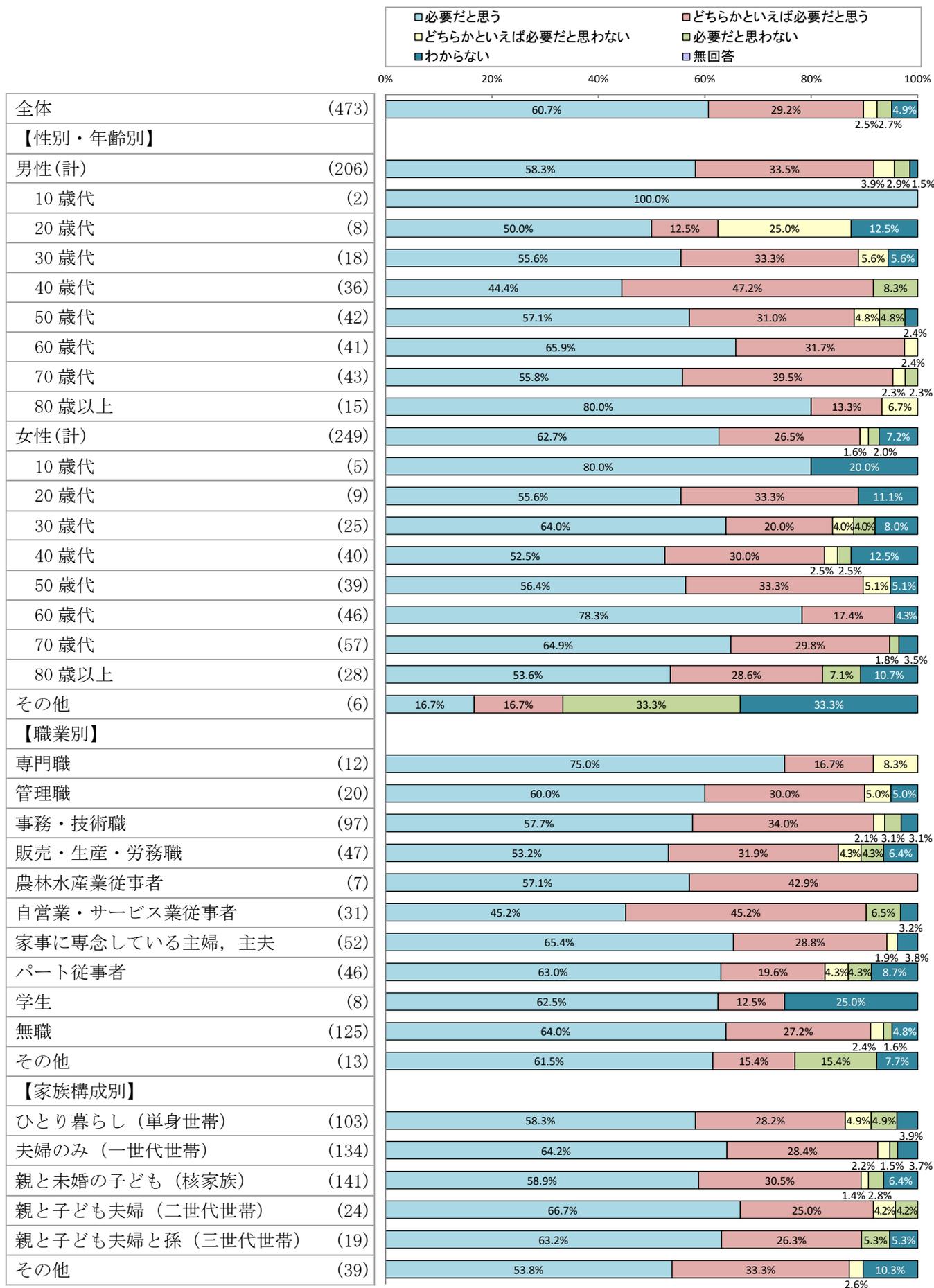
<参考>

性別・年齢別で見ると、【必要だと思う(計)】は<男性20歳代>の62.5%を除き、いずれの年代でも80.0%を超えた。一方、【必要だと思わない(計)】は<その他>を除くと、<男性20歳代>が25.0%で最も高く、次いで<男性50歳代>が9.6%であった。(図IV-6-4)

職業別で見ると、【必要だと思う(計)】は<農林水産業従事者>が100.0%、<家事に専念している主婦、主夫>が94.2%であった。(図IV-6-4)

家族構成別で見ると、<夫婦のみ一世代世帯>が92.6%で最も高く、次いで<親と子ども夫婦(二世帯世帯)>が91.7%であった。一方、【必要だと思わない(計)】は<ひとり暮らし(単身世帯)>が9.8%で最も高く、次いで<親と子ども夫婦(二世帯世帯)>が8.4%であった。(図IV-6-4)

<図IV-6-4>性別・年齢別／職業別／家族構成別



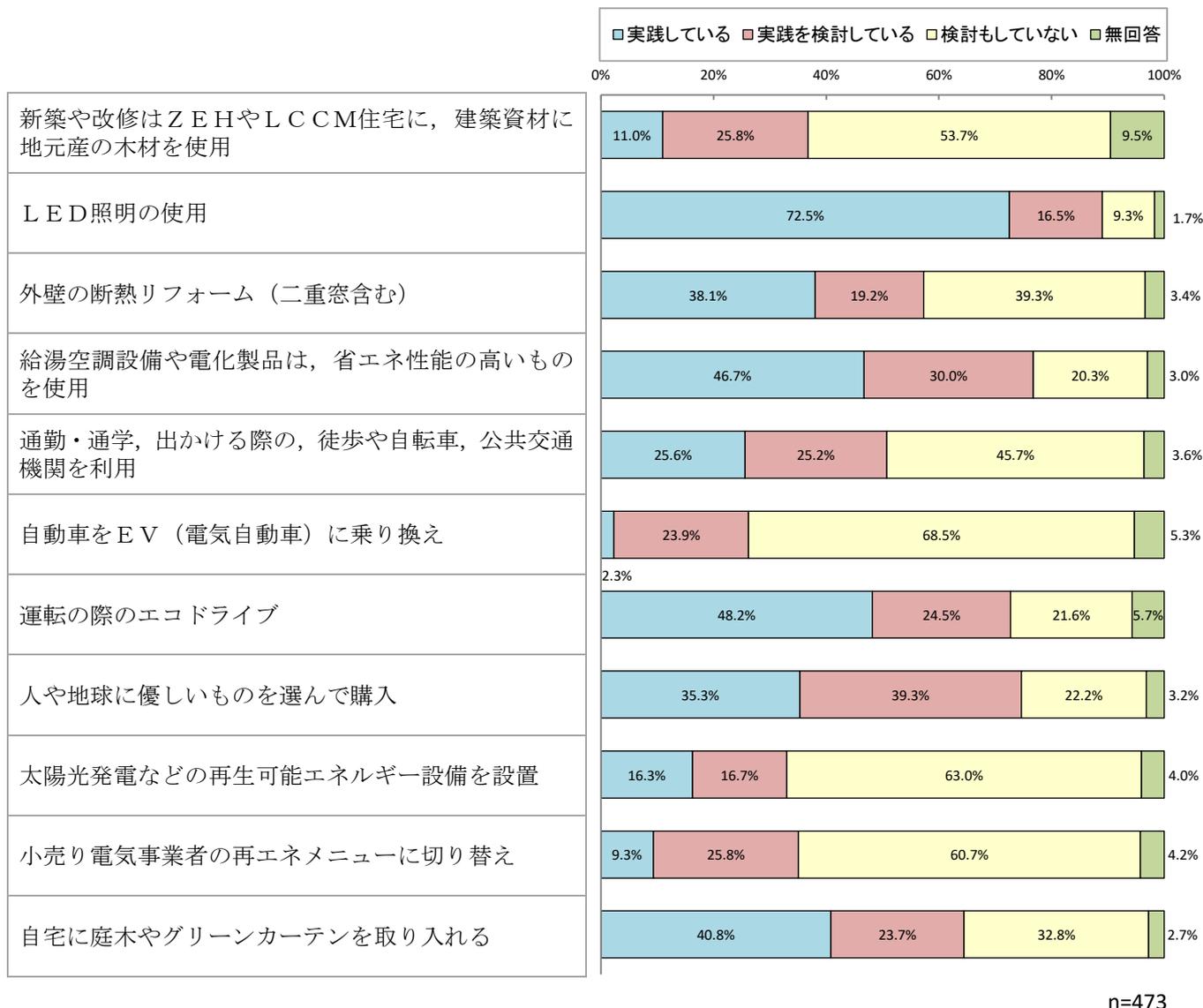
(3) カーボンニュートラルにつながる行動について

◇ 「実践している」は『LED照明の使用』が7割強

問22 以下のカーボンニュートラルにつながる各項目の行動について、「実践している」場合は1, 「実践を検討している」場合は2, 「検討もしていない」場合は3のいずれかに○をつけてください。
(○は1つ)
n=473

項目	実践している	実践を検討している	検討もしていない	(無回答)	合計
1 新築や改修はZEH(※1)やLCCM住宅(※2)に、建築資材に地元産の木材を使用 ※1 ZEH: 外皮の断熱性能を大幅に向上させるとともに、高効率な設備システムの導入により、室内環境の質を維持しつつ大幅な省エネルギーを実現した上で、再生可能エネルギーを導入することにより、年間の一次エネルギー消費量の収支がゼロとすることを目指した住宅 ※2 LCCM住宅: ライフ・サイクル・カーボン・マイナス住宅の略。建物を長寿命化するとともに、居住時だけでなく、住宅の建設から廃棄時に至るまでできるだけ省CO2に取り組み、ライフサイクルを通じてのCO2の収支をマイナスにする住宅	11.0%	25.8%	53.7%	9.5%	100.0%
2 LED照明の使用	72.5%	16.5%	9.3%	1.7%	100.0%
3 外壁の断熱リフォーム(二重窓含む)	38.1%	19.2%	39.3%	3.4%	100.0%
4 給湯空調設備や電化製品は、省エネ性能の高いものを使用	46.7%	30.0%	20.3%	3.0%	100.0%
5 通勤・通学、出かける際の、徒歩や自転車、公共交通機関を利用	25.6%	25.2%	45.7%	3.6%	100.0%
6 自動車をEV(電気自動車)に乗り換え	2.3%	23.9%	68.5%	5.3%	100.0%
7 運転の際のエコドライブ	48.2%	24.5%	21.6%	5.7%	100.0%
8 人や地球に優しいものを選んで購入	35.3%	39.3%	22.2%	3.2%	100.0%
9 太陽光発電などの再生可能エネルギー設備を設置	16.3%	16.7%	63.0%	4.0%	100.0%
10 小売り電気事業者の再エネメニューに切り替え	9.3%	25.8%	60.7%	4.2%	100.0%
11 自宅に庭木やグリーンカーテンを取り入れる	40.8%	23.7%	32.8%	2.7%	100.0%

<図IV-6-5>全体



カーボンニュートラルにつながる行動については、「実践している」は『LED照明の使用』が72.5%で最も高く、次いで『運転の際のエコドライブ』が48.2%、『給湯空調設備や電化製品は、省エネ性能の高いものを使用』が46.7%と続いた。「検討もしていない」は『自動車をEV（電気自動車）に乗り換え』が68.5%で最も高く、次いで『太陽光発電などの再生可能エネルギー設備を設置』が63.0%、『小売り電気事業者の再エネメニューに切り替え』が60.7%と続いた。（図IV-6-5）

<参考>

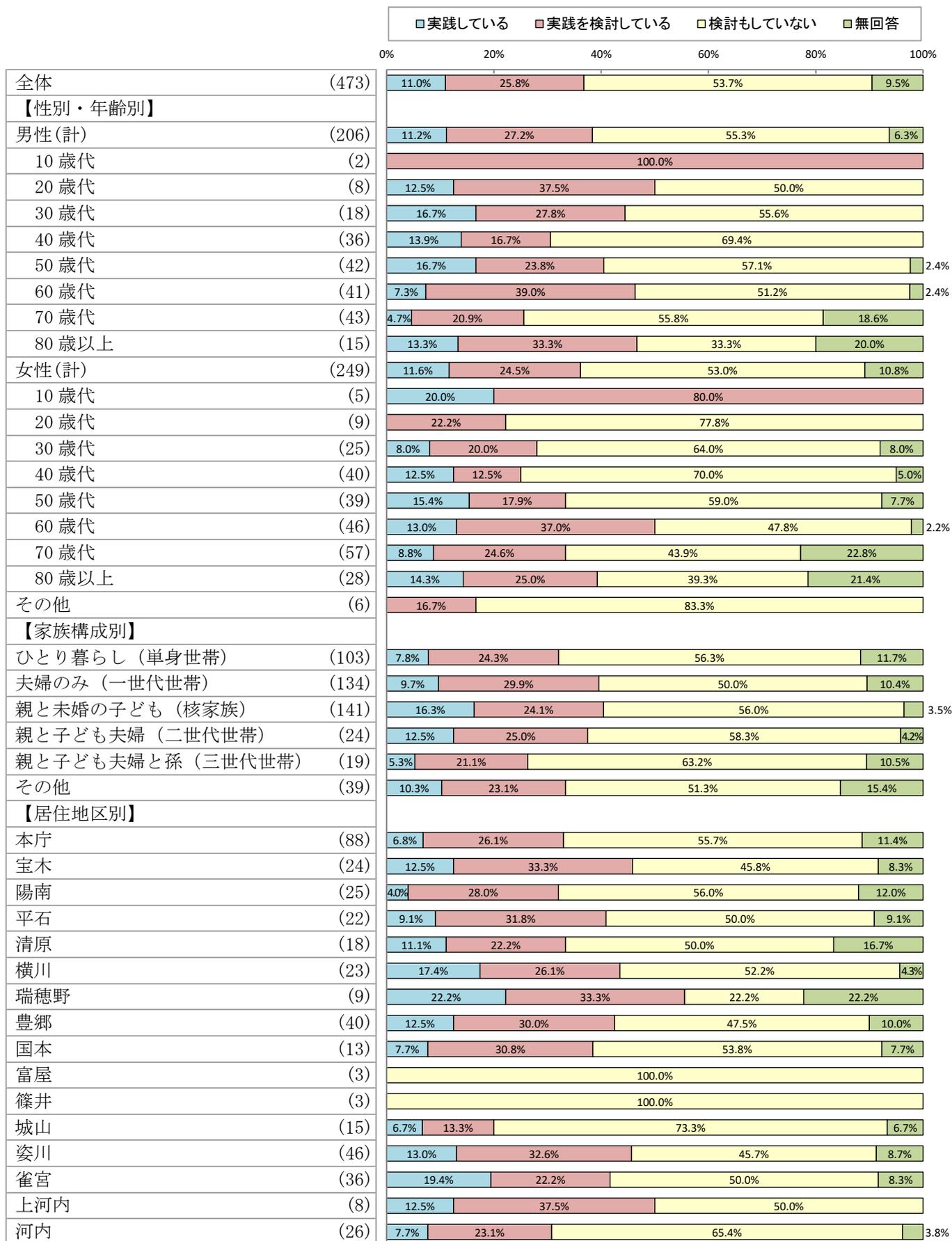
カーボンニュートラルにつながる行動について、「実践している」が最も高かった『LED照明の使用』を性別・年齢別でみると、いずれの年代でも50.0%を超えた。（図IV-6-7）

家族構成別でみると、<親と未婚の子ども（核家族）>が81.6%で最も高く、次いで<夫婦のみ（一世帯世帯）>が75.4%であった。（図IV-6-7）

居住地区別でみると、いずれの地区でも60.0%を超えた。（図IV-6-7）

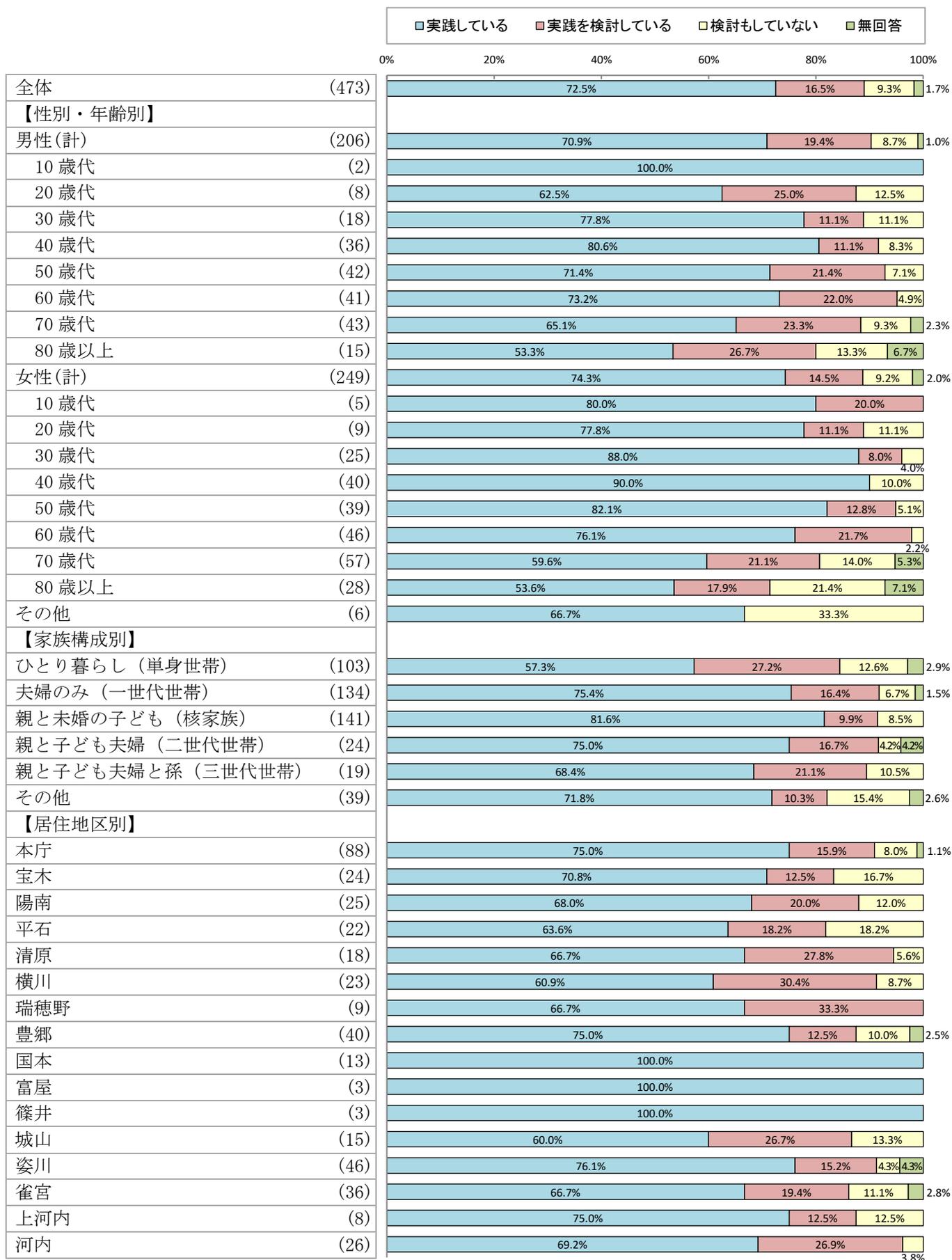
<図IV-6-6>性別・年齢別／家族構成別／居住地区別

①「新築や改修はZEHやLCCM住宅に、建築資材に地元産の木材を使用」



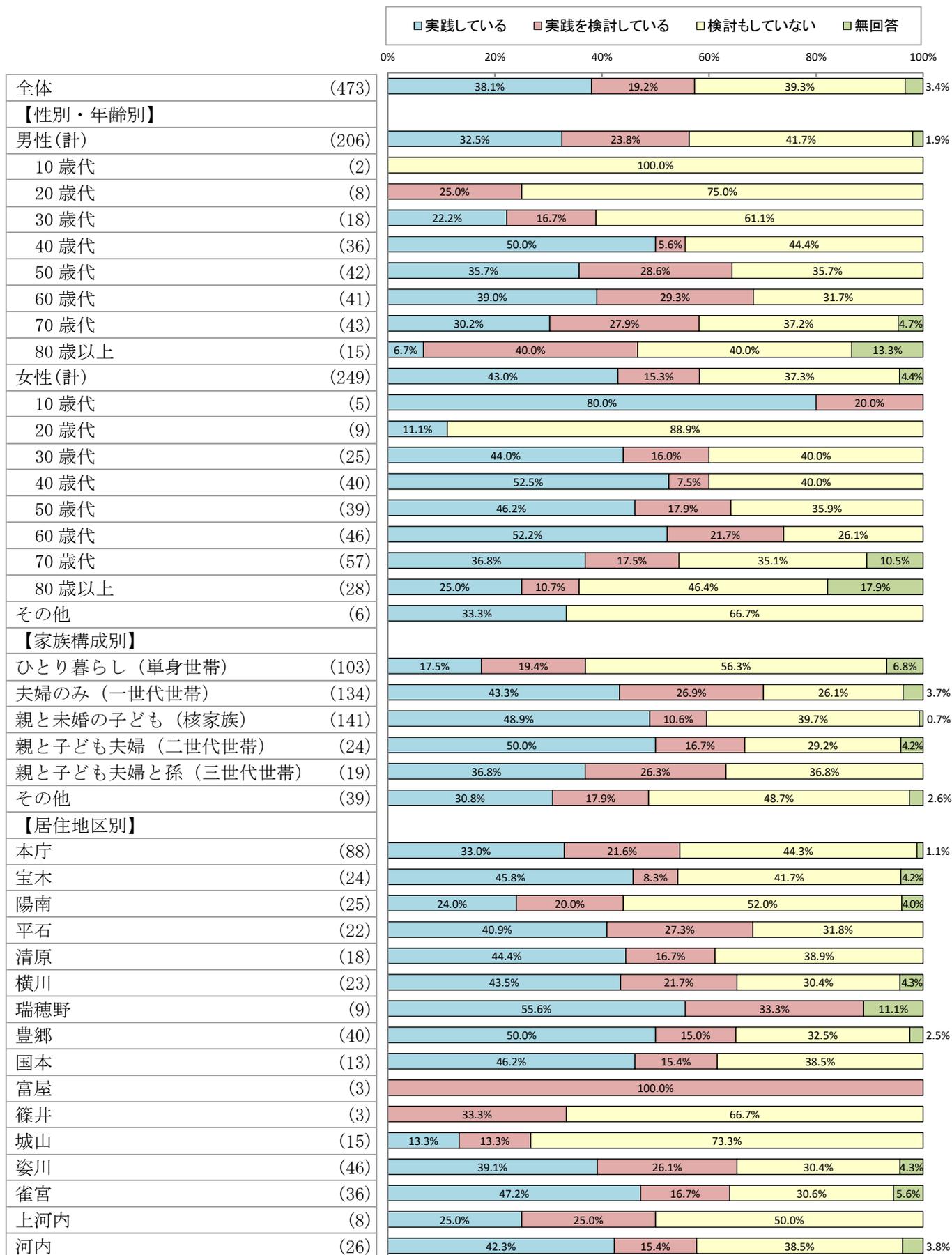
<図IV-6-7>性別・年齢別／家族構成別／居住地区別

②「LED照明の使用」



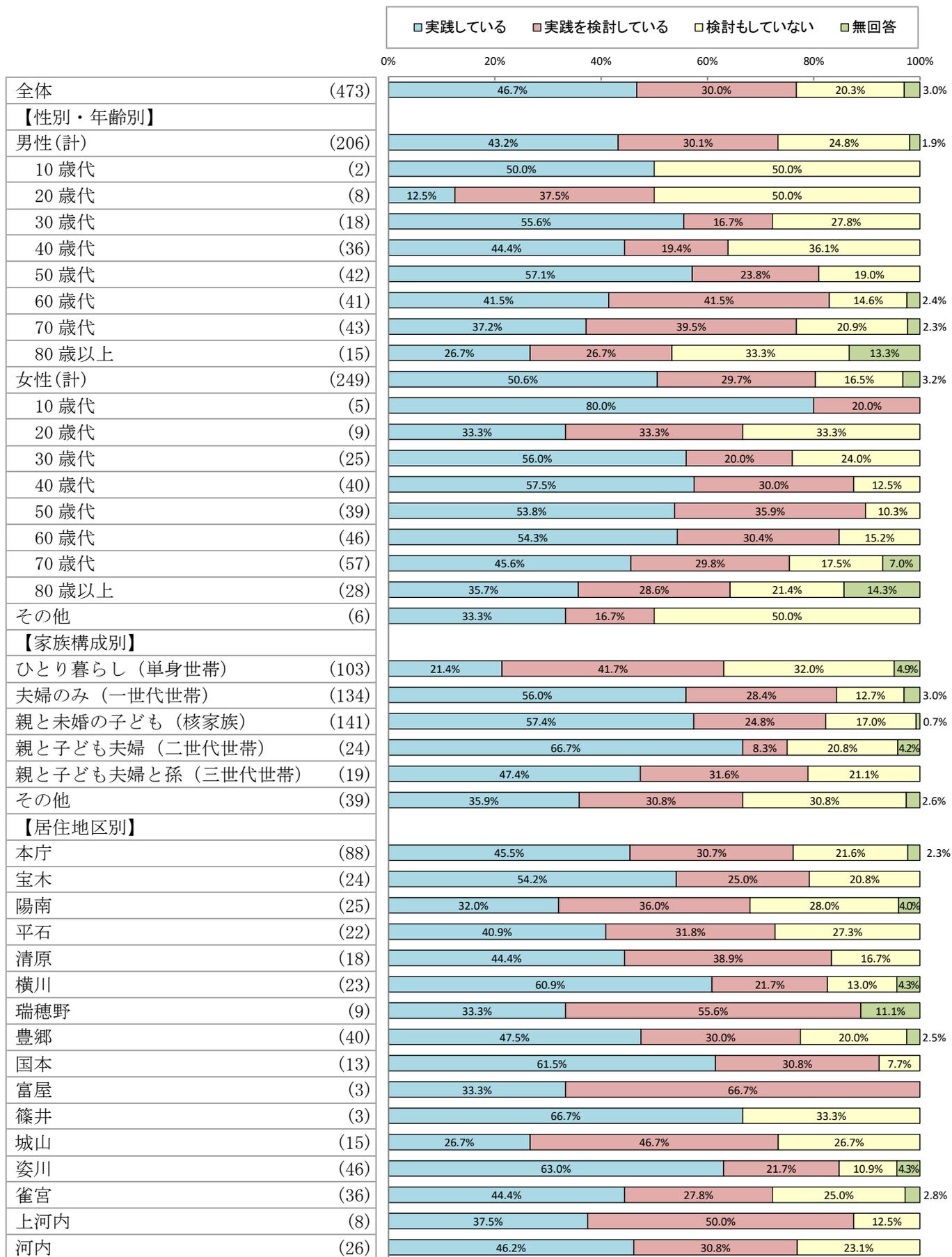
<図IV-6-8>性別・年齢別／家族構成別／居住地区別

③「外壁の断熱リフォーム（二重窓含む）」



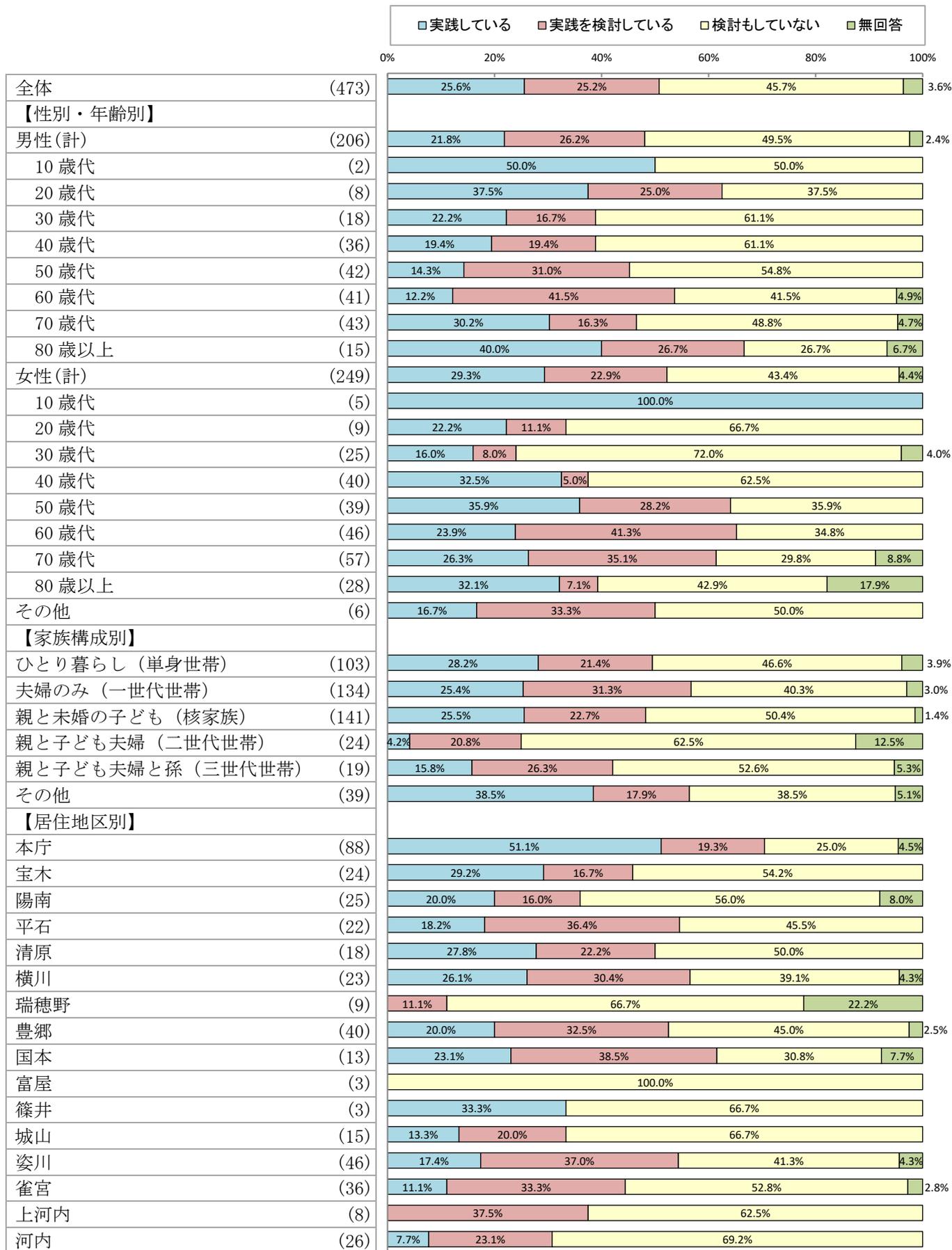
<図IV-6-9>性別・年齢別／家族構成別／居住地区別

④「給湯空調設備や電化製品は、省エネ性能の高いものを使用」



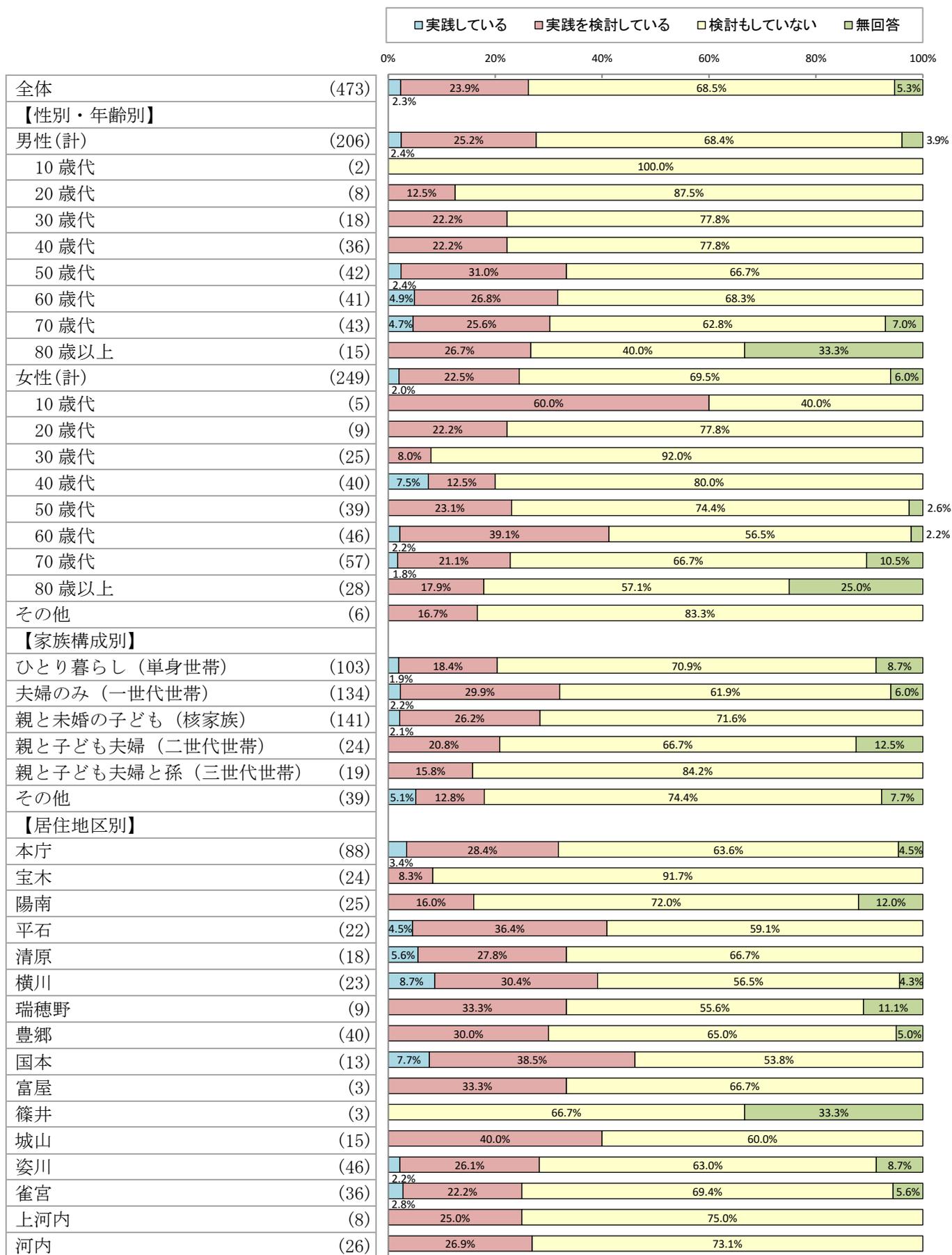
<図IV-6-10>性別・年齢別／家族構成別／居住地区別

⑤「通勤・通学，出かける際の，徒歩や自転車，公共交通機関を利用」



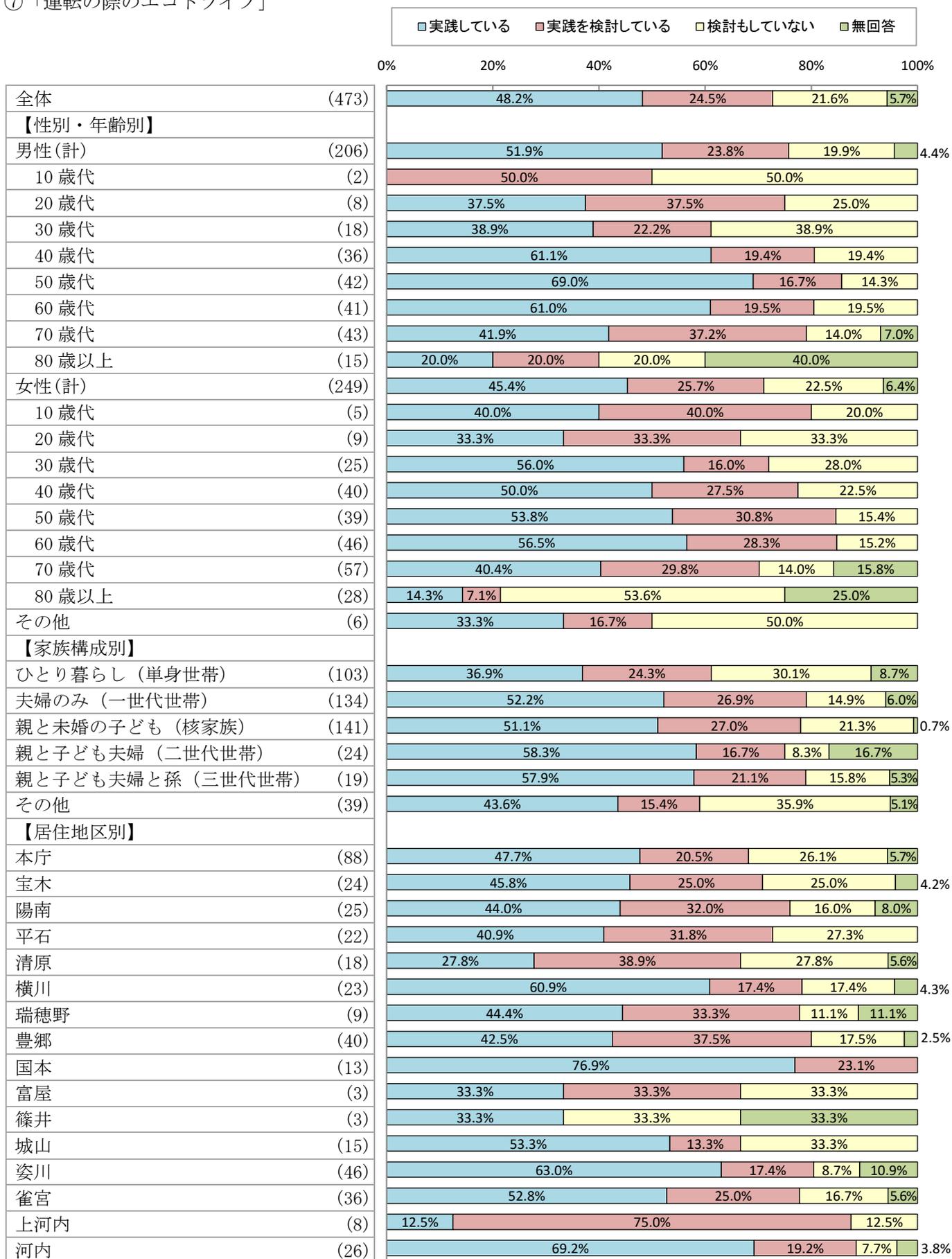
<図IV-6-11>性別・年齢別／家族構成別／居住地区別

⑥「自動車をEV（電気自動車）に乗り換え」



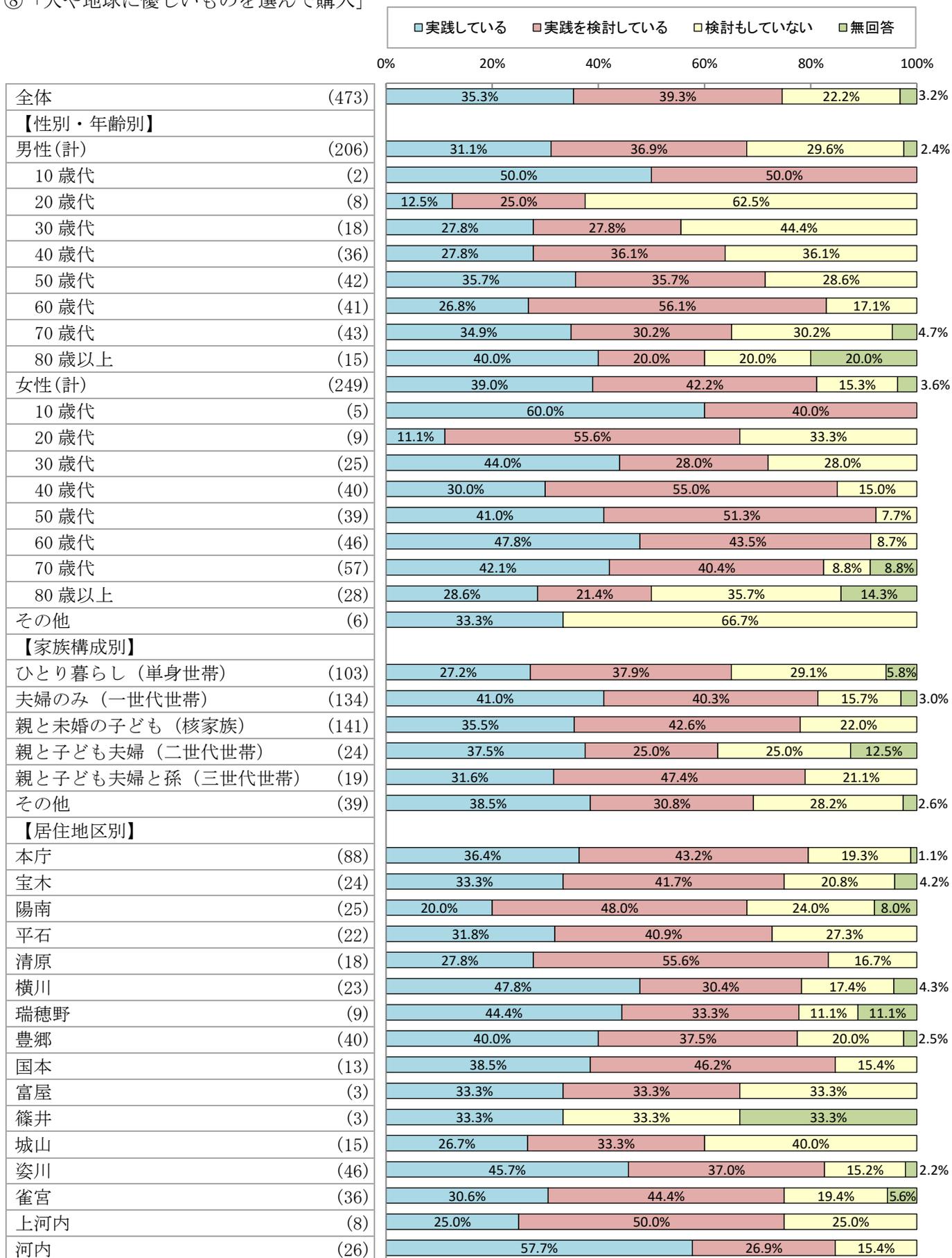
<図IV-6-12>性別・年齢別／家族構成別／居住地区別

⑦「運転の際のエコドライブ」



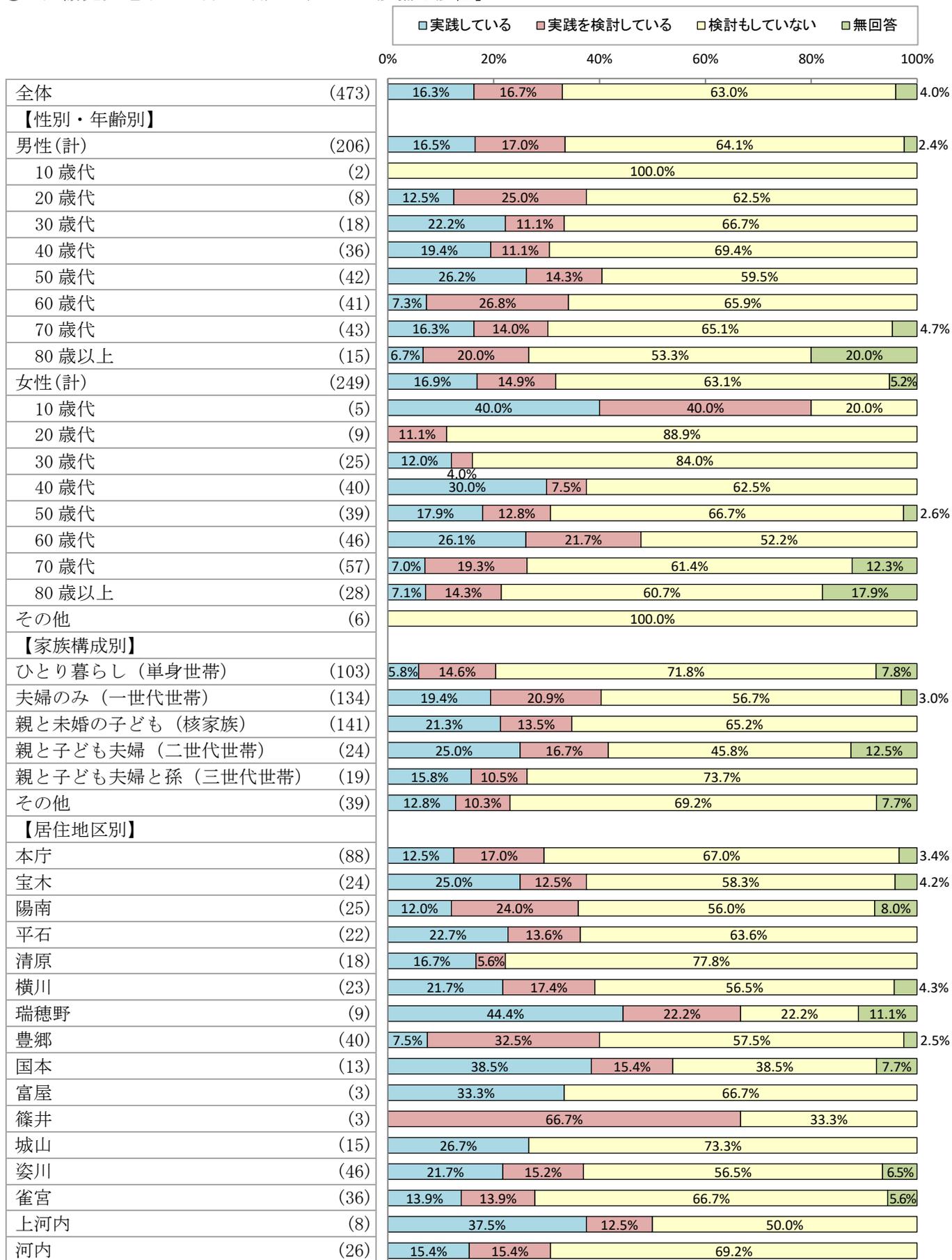
<図IV-6-13>性別・年齢別／家族構成別／居住地区別

⑧「人や地球に優しいものを選んで購入」



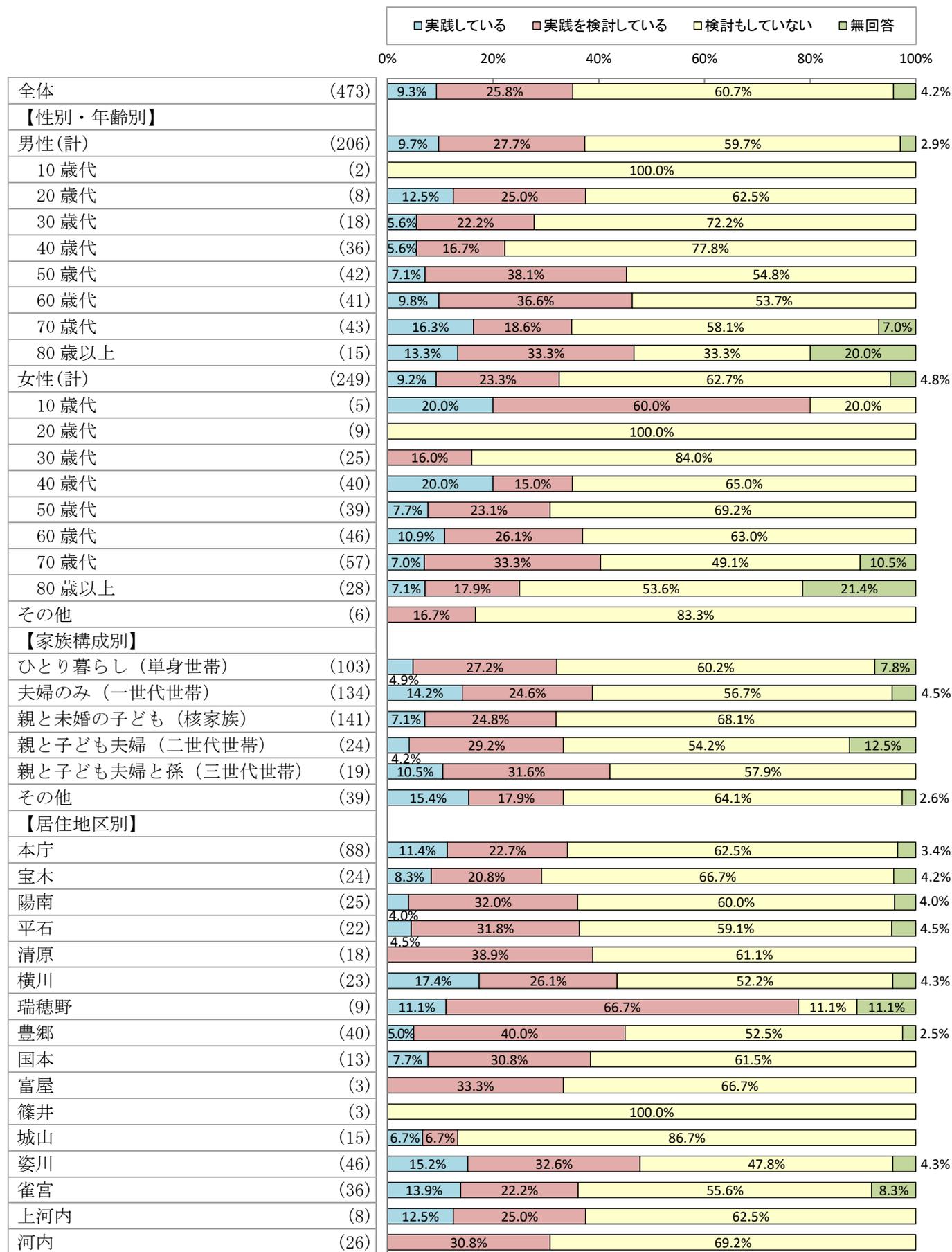
<図IV-6-14>性別・年齢別／家族構成別／居住地区別

⑨「太陽光発電などの再生可能エネルギー設備を設置」



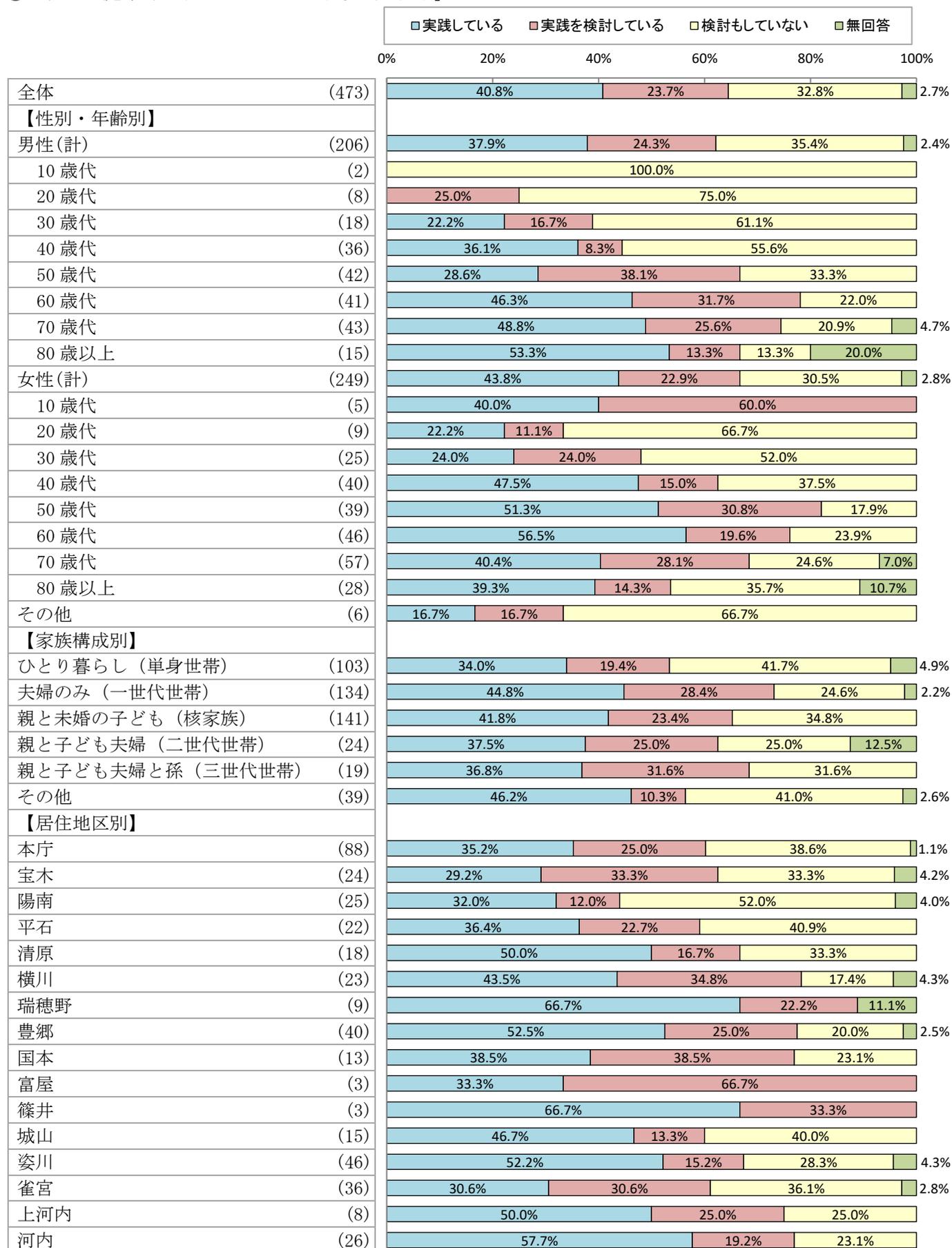
<図IV-6-15>性別・年齢別／家族構成別／居住地区別

⑩「小売り電気事業者の再エネメニューに切り替え」



<図IV-6-16>性別・年齢別／家族構成別／居住地区別

⑪「自宅に庭木やグリーンカーテンを取り入れる」



(4) ライトラインが再生可能エネルギー100%で走行していることの認知度

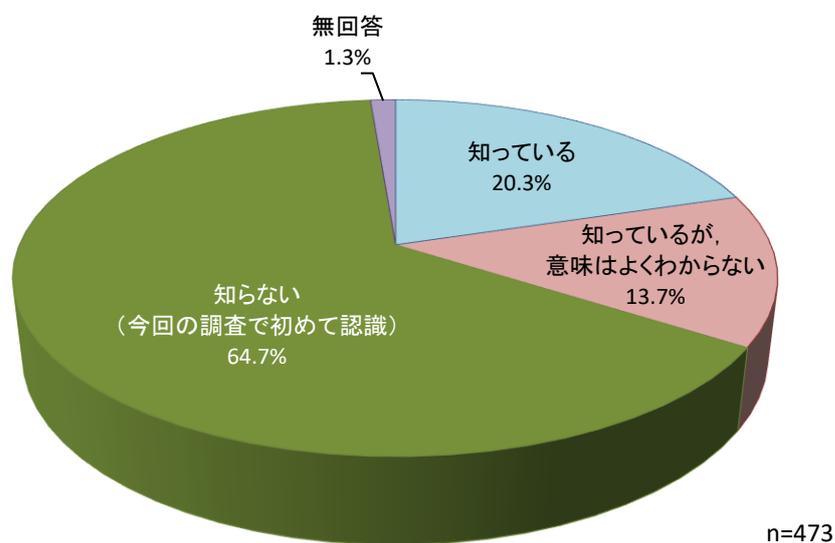
◇ 「知らない（今回の調査で初めて認識）」が6割半ば

問23 ライトラインは、宇都宮ライトパワー株式会社（※）の供給によるごみの焼却や家庭用太陽光発電により生み出される地域由来の再生可能エネルギー100%で走行していること（ゼロカーボントランスポート）を知っていますか。

※「宇都宮ライトパワー株式会社」は再生可能エネルギーの地産地消を推進する、官民共同出資による地域新電力会社
(○は1つ)

		n=473
1	知っている	20.3%
2	知っているが、意味はよくわからない	13.7%
3	知らない（今回の調査で初めて認識）	64.7%
	（無回答）	1.3%

<図IV-6-17>全体



ライトラインは、宇都宮ライトパワー株式会社のゼロカーボントランスポートで走行していることを知っているかについては、「知らない（今回の調査で初めて認識）」が64.7%で最も高く、次いで「知っている」が20.3%であった。（図IV-6-17）

<参考>

性別・年齢別でみると、「知っている」は<その他>を除くと、<女性60歳代>が30.4%で最も高く、次いで<男性80歳以上>が26.7%であった。（図IV-6-18）

職業別でみると、「知っている」は<専門職>が33.3%で最も高く、次いで<管理職>が25.0%、<家事に専念している主婦、主夫>が23.1%と続いた。（図IV-6-18）

居住地区別でみると、「知っている」は<清原>が44.4%で最も高く、次いで<城山>が33.3%、<横川> <姿川>がいずれも30.4%と続いた。（図IV-6-18）

<図IV-6-18>性別・年齢別／職業別／居住地区別

